



盆踊り大会を開催しました

8月14日（水）は、天候の心配もなく夜7時30分から文化部主催の盆踊り大会を6年ぶりに開催しました。一番大掛かりな作業となる櫓組みと提灯は、宿南やちゃ踊り保存会・区長の皆さんによってふれあい倶楽部広場に準備できました。露店コーナーでは、小学生以下の子供達にはお楽しみプレゼントや「ヨーヨーつり」「スーパーボールすくい」、大人には生ビール、その他焼き鳥、かき氷、お茶、ジュースなどを揃えてお待ちしました。オープンと同時に多くのお客様のご来場で、どのコーナーにも行列ができ笑顔がいっぱいあふれました。

宿南やちゃ踊り保存会の皆様はお揃いの法被姿で、踊りや歌、お囃子で盛り上げていただきました。

そうあんくんも登場して子供たちと一緒に踊りの輪に入り、宿南音頭が延々と響き渡り大盛況で終了することができました。

ご来場の皆様、宿南やちゃ踊り保存会の皆様、スタッフの皆様ありがとうございました。



身近で見られる植物 ④⑩

ヌスビトハギ（盗人萩）〈マメ科〉

花は、夏から秋にかけて、小さな薄紫色の花を着ける多年草です。名前の由来は、種（節果）の形が、足袋をはいた盗人が、つま先で抜き足差し足と歩いて付けた



足跡の形に似ていることと、花が萩に似ている事からです。花の形はマメ科特有の形をしています。種は「くつつき虫」と言われるように衣類にいっぱい付きますのでご用心。



自治振興部会を開催しました

8月26日（月）5月に実施した全住民アンケートの集約ができたので、部会員の皆さまに結果発表とともに説明を行いました。地区民の皆様には別途資料を配布しますのでご覧下さい。3年先、5年先、10年先の私たちの宿南地区を更によくしていくために、皆さんと一緒に考えましょう。

次回開催日は 10月10日（木）

19時30分～

ふれあい倶楽部ホールにて
この部会は宿南地区民の方
どなたでも参加OKです。



お知らせ

9月15日（日）村民号（別紙配布）参加募集開始

10月11日（金）村民号申し込み締め切り

10月20日（日）市長・市議会議員投票日

9月22日（日）宿南地区総合運動会

10月13日（日）～14日（月）秋まつり

10月27日（日）村民号（鳥取方面）



草庵先生紹介

日記 67



青谿書院で塾生たちに交じって草庵（中央）の講義を聴く相馬九方（左から2人目）

宮崎和夫さん作

池田草庵の師・相馬九方は家族で湯島（現・豊岡市城崎町）に保養に来て1カ月近く滞在していた。その間に草庵は九方に会いに湯島まで行っている。「早起き、黙座。講義は「論語」。検読3人。塾生の安積と松本を連れて湯島に行く。明日相馬先生に会う。日が暮れてから着く。宿は油筒屋」（安政5〈1858〉年9月2日）

「朝、相馬先生の宿を訪問。午後また訪問。夜は福田村の木築氏宅に宿す」（同3日）午前も午後も九方の所に行っており、いろいろな話をしたことだろう。

九方は保養を切り上げて湯島からの帰途、再び青谿書院に立ち寄った。今度は5日間滞在した。「（前略）今日の夕方、相馬先生は家族を連れて来られ、泊まれる。夜はずっといろんな話をする。一緒に聞いた客はおおよそ5人。夜遅く就寝」（同21日）

「休講。相馬先生と終日終夜話しをする。國屋松軒が豊岡からの帰りに立ち寄る。松軒も一緒に話に加わる。夜は共に片山（実家・兄の家）に行く。片山に泊まる」（同22日）

このようにして九方は、青谿書院に9月25日まで滞在して草庵と旧交を温めたり、実際に草庵の講義の場に塾生に交じって座ったりしていたのだった。その時のことを明治に刊行された豊田小八郎著「但馬聖人」では九方の言葉として次のように紹介している。「草庵の講義を聴いて、私は初めて自分の60年の非を悟った。私が再び少年になれるなら、草庵を師とするだろう。私の子は女子ばかりだから、門下生で跡取りの土屋岩太郎を私の名代として草庵の元に入門させることにする」師の立場でありながら、草庵の立派さを自分以上だと認めた九方もまた立派な人だった。

そして実際に翌年、九方は土屋岩太郎という自分の門下生を、草庵の元で学ばせるために青谿書院に入塾させた。この土屋岩太郎は、後に土屋鳳州と名乗り奈良師範学校長、東洋大学教授などを歴任し、明治時代の日本の教育や漢学の信仰に尽くした人である。

池田草庵先生に学ぶ会